

- ▶ 長野県における松くい虫被害は、昭和56年度の確認依頼年々増加し、25年度には、過去最高となる約7万8千m³となった。令和2年度（速報値）においては、約6万4千m³（全国1位の被害量）と依然高止まり傾向となっている。
- ▶ そこで、令和2年度は、アカマツ林の松くい虫被害が俯瞰的に見える「松くい虫被害マップ」をベースに500mメッシュに区切り、メッシュごとに未被害、微害、拡大激害の4段階の被害レベルに分類した「松くい虫被害レベルマップ」及び、マツノマダラカミキリの移動範囲を想定し先端区域等を定めた「地域区分図」をモデル的に一部の地域で作成した。
- ▶ 令和3年度は、全県で「松くい虫被害レベルマップ」「地域区分図」の作成を進めている。

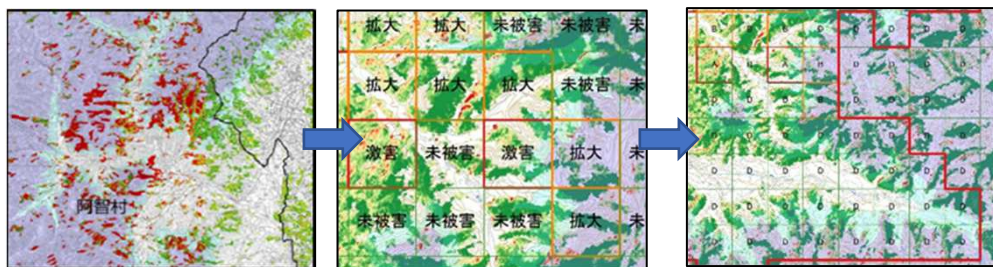
□ 事業内容

1 松くい虫被害地域森林経営管理対策支援事業

- 松くい虫被害レベルマップ・地域区分図の作成

【事業費】4,970千円（うち譲与税4,970千円）

【実績】長野県中信地域の一部作成、該当市町村に配付



①松くい虫被害マップ ②被害レベルマップ ③地域区分図

□ 工夫・留意した点

- 長野県の全域を網羅するレベルマップ等を作成する必要があったことから、航空レーザ測量と衛星写真を活用し、広域的に抽出を行った。
- 松くい虫被害の拡大スピードが速いことから、継続的に利用できるように、レベルマップ等の更新の行いやすさに考慮した。

◇ 基礎データ

| | |
|---------------|------------|
| ①令和2年度譲与額 | 185,794千円 |
| ②私有林人工林面積（※1） | 248,459ha |
| ③人口（※2） | 2,688人 |
| ④林業就業者数（※3） | 2,098,804人 |

※1：「森林資源現況調査（林野庁、H29.3.31現在）」より

※2, 3：「H27年国勢調査」より

□ 事業スキーム

1 松くい虫被害レベルと防除対策

松くい虫被害レベルとそれぞれの場所・場面（松林区分）を重ねることで、下表のような効率的・効果的な対策の推進、対策の「見える化」を図ることが可能となる。

| 松林区分 | 被害レベル | 未被害 | 微被害 | 拡大 | 激害 |
|-----------------------------------|--------------------------|-----|-------------------------------------|------------|-----------------------------------|
| 守るべき松林 | 予防【薬剤散布（リスクコミュニケーション必須）】 | | 予防【薬剤散布（リスクコミュニケーション必須）等】 | | 松林区分の留意し被害林再生 業態整備 枯損木利用用など |
| | | | 伐倒 駆除 | | |
| 重要な保安林 （重要樹木、治山工事 経路沿いの樹木等） | 保安林整備（治山事業） | | 保安林整備（治山事業） 樹種転換（枯損木等伐採、植栽）、土留工事 | | |
| 周辺松林 | | | 伐倒駆除、樹種転換 | | 被害林再生 業態整備 枯損木利用用など |
| その他松林 | 樹種転換 | | 樹種転換 | | |
| 道路等ライフラインの樹木対策 （上記区分にかかわらず） | | | | 枯損・危険木処理 等 | |
| | 全国統一的な支援（国庫補助金） | | | | 県独自の支援（産林税） |

2 地域区分図と施業指針

地域区分から、アカマツの伐採や移動に必要な条件を判断し、条件付きで伐採する区域や、通年伐採が可能な区域の「見える化」を図ることが可能となる。

3 市町村が行う松くい虫被害防除事業の支援

地域からの松くい虫対策の要望に対し、優先的に実施する場所の説明が本事業の成果からできる。

森林経営管理制度に基づく森林所有者の意向調査で、市町村に管理を任せられた森林（アカマツ林）に対する説明責任が果たせる。